

海技協会報2026.7
VOL.

160

マリーン・ プロフェッショナル

Japan Marine Construction
Engineering Association



CONTENTS



海技協会報

ページ

01 巻頭言 九州支部

～未来(あした)のために
いまできる全力を～

一般社団法人日本海上起重技術協会 理事 九州支部 副支部長
福丸建設株式会社 代表取締役 増田 貴光

03 協会活動

- ・ 第40回通常総会

09 会員寄稿「会員の広場」

四国支部

- ・ 100年企業に向けて

株式会社轟組
代表取締役副社長 小笠原 佳孝

11 会員作業船紹介 近畿支部

- ・ DPS作業台船「あわじ」
株式会社関海事工業所

16 海の匠「登録海上起重基幹技能者の紹介」シリーズ 中国支部

カナツ技建工業 株式会社 小笠原 洋治

17 マリーンニュース「事務局だより」

東北支部

- ・ 令和8年度 東北支部通常総会を開催

四国支部

- ・ 令和8年度 四国支部通常総会を開催

本部活動

- ・ 第113回理事会

本部からのお知らせ

- ・ 令和8年度 港湾功労者表彰 受賞者紹介

19 インフォメーション「お知らせコーナー・販売図書案内」

～未来(あした)のために いまできる全力を～

一般社団法人日本海上起重技術協会 理事 九州支部 副支部長
福丸建設株式会社 代表取締役

増田 貴光



日本海上起重技術協会創立40周年、誠におめでとうございます。

起重機船をはじめ、様々な作業船を駆使し、我が国の港湾インフラ整備を支え、日本の発展に大きく貢献してこられた先人の皆様、そして会員の皆様に、心より敬意と感謝を申し上げます。

本年2月には、アメリカ・イスラエルによる空爆を契機として中東情勢が緊迫し、ホルムズ海峡の封鎖によって原油調達に極めて困難となりました。その影響は物価高騰など国民生活にも及び、まさに国難ともいえる状況が続いております。

歴史を振り返れば、半世紀以上前にも原油の輸入が制限され、日本は危機的な局面に立たされました。そのような中、出光興産の創業者・出光佐三は、大型タンカー「日章丸」を佐世保船舶工業で建造させ、幾多の困難を乗り越えて日本へ原油を運びました。その挑戦と信念は、国難に立ち向かう今の私たちにとっても、大きな道標となるのではないのでしょうか。



日章丸竣工式



日章丸

第40回通常総会

第40回通常総会が5月11日(月)開催され、会員各位のご協力により各議案は原案どおり承認されました。総会終了後、功労者表彰式を行いました。その後、国土交通省大臣官房技術参事官森橋真様による講演を頂きました。次に40周年記念講演として、徳島大学環境防災研究センター客員教授中西敬様による講演を頂きました。夕刻から開催しました通常総会懇親会及び設立40周年記念祝賀会では、関係団体をはじめ多くのご来賓の出席を頂き、和やかに懇談が行われました。



挨拶する寄神会長



寄神会長と受賞者一同



講演会で講演する
国土交通省 大臣官房技術参事官
森橋 真様



40周年記念講演をする
徳島大学環境防災研究センター 客員教授
中西 敬様



通常総会懇親会・
設立40周年記念祝賀会で挨拶する
寄神会長



衆議院議員
宮内 秀樹様



参議院議員
阿達 雅志様



参議院議員
朝日 健太郎様



国土交通省 港湾局長
安部 賢様



農林水産省
水産庁 漁港漁場整備部長
中村 隆様



乾杯を行う
全国浚渫業協会 会長 金澤 寛様



中締めを行う
清原副会長

第40回通常総会報告

一般社団法人日本海上起重技術協会は、去る5月11日(月)第40回通常総会を東京・ホテルルポール麹町において開催しました。

通常総会では、寄神会長から令和7年度会務報告をかねた挨拶があり、令和7年度事業報告、収支決算及び令和8年度事業計画、収支予算並びに役員改選について審議され、原案どおり承認されました。

◆第40回通常総会

- | | |
|---------|---|
| 1. 開催日時 | 令和8年5月11日(月) 14:30～ |
| 2. 開催場所 | ホテルルポール麹町(東京都千代田区平河町2-4-3) |
| 3. 総会議案 | 報告事項① 令和7年度事業報告の件
第1号議案 令和7年度収支決算の件
報告事項② 令和8年度事業計画の件
報告事項③ 令和8年度収支予算の件
第2号議案 役員の選任の件 |

上記議案のうち報告事項①～報告事項③の内容につきましては、「海技協ホームページ」の「海技協とは」の中の「8. 事業報告等」に掲載しておりますので、ご覧ください。

また、この総会をもって理事の本間 達郎様、鳥海 慎吾様が退任され、第2号議案にて役員の選任が行われ、奥村 雄二様、中条 久様の2名が新たに理事に選任されました。

なお、通常総会終了後に臨時理事会を開催し、副会長に山本 寿生様、が新たに選任されました。

役員名簿(令和8年5月11日改選)

会 長	寄神 茂之	寄神建設(株)	名誉相談役
副会長	清原 生郎	関門港湾建設(株)	代表取締役社長
副会長	北海道支部長 濱谷 美津男	(株)濱谷建設	代表取締役社長
副会長	北陸支部長 奥村 雄二	(株)本間組	代表取締役社長
副会長	中部支部長 佐野 茂樹	青木建設(株)	代表取締役
副会長	山本 寿生	深田サルベージ建設(株)	代表取締役会長
専務理事	富田 幸晴		
理 事	東北支部長 細川 英邦	(株)細川産業	代表取締役
理 事	関東支部長 中条 久	(株)古川組	専務取締役
理 事	近畿支部長 寄神 裕佑	寄神建設(株)	代表取締役社長
理 事	中国支部長 山本 静清	大新土木(株)	代表取締役副社長
理 事	四国支部長 平野 雅也	大旺新洋(株)	専務取締役
理 事	九州支部長 上野 世志史	(株)白海	会 長
理 事	沖縄支部長 丸尾 剛	丸尾建設(株)	代表取締役
理 事	浅賀 雅彦	青木マリーン(株)	代表取締役社長

理 事	梅田 宜嗣	高砂建設(株)	代表取締役社長
理 事	卜部 友典	(株)谷村建設	代表取締役社長
理 事	岡本 清嗣	九州総合建設(株)	代表取締役
理 事	金津 任紀	カナツ技建工業(株)	代表取締役会長
理 事	坂 昭弘	勇建設(株)	代表取締役社長
理 事	清水 重輝	(株)清水組	取締役会長
理 事	菅原 博之	宮城建設(株)	代表取締役社長
理 事	壺阪 博昭	(株)吉田組	代表取締役社長
理 事	西川 晋司	(株)ソイルテクニカ	代表取締役社長
理 事	堀松 和彦	堀松建設工業(株)	代表取締役社長
理 事	増田 貴光	福丸建設(株)	代表取締役社長
理 事	松浦 泰隆	松浦企業(株)	代表取締役社長
理 事	村上 誠	村上建設(株)	代表取締役社長
監 事	黒子 政治	京浜港湾工事(株)	代表取締役社長
監 事	高橋 宏	三国屋建設(株)	代表取締役会長

注) 役員の種別毎の五十音順

■新役員紹介



副会長 理 事
(株)本間組
代表取締役社長
奥村 雄二 氏



理 事
(株)古川組
専務取締役
中条 久 氏

◆協会長表彰

令和8年度功労者表彰式が通常総会終了後行われ、寄神会長から感謝状、表彰状並びに副賞が授与されました。

● 特別功労者（退任役員）

氏 名	所 属 会 社	経 歴
本間 達郎	(株)本間組	副会長 (H9 ～ R7)
鳥海 慎吾	(株)古川組	理事・常任委員 (R元～R7)

● 特別功労者（長期専門委員会委員等）

氏 名	経 歴
菅沼 史典	常任委員会委員長 (H29～)
松本 祐二	常任委員会委員 (H30～)
久保地 望	常任委員会委員・安全対策委員会 (H27～)
辰尻 俊明	事業委員会委員 (H28～)
清水 明彦	技術委員会委員 (H27～)
荒木 昌実	技術委員会委員 (H26～)
小山内 英雄	技術認定委員会委員・講習試験委員会委員 (H27～)
大武 淳二	安全対策委員会副委員長 (H27～)
村野 雄博	安全対策委員会委員 (H29～)
松山 治	安全対策委員会委員 (H29～)

● 会員会社の役職員表彰

支 部	氏 名	所 属 会 社	職 名
北海道	松山 周二	(株)富士サルベージ	工事部工課長
〃	新谷 隆司	(株)西村組	船団長
東 北	村澤 敏晴	(株)清水組	取締役安全部長
中 部	西村 浩昭	高砂建設(株)	機材管理部部長代理
近 畿	坪内 理	日本海工(株)九州支店	執行役員支店長
〃	菊谷 明夫	寄神建設(株)	執行役員部長
中 国	小笠原 洋治	カナツ技建工業(株)	専門マネージャー
九 州	原 孝貴	(株)西海建設	土木工事部部長
〃	堤田 勝次	門田建設(株)	船団長



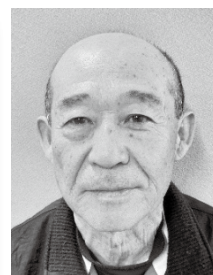
松山周二 氏
(株)富士サルベージ



新谷隆司 氏
(株)西村組



村澤敏晴 氏
(株)清水組



西村浩昭 氏
高砂建設(株)



坪内 理 氏
日本海工(株)九州支店



菊谷明夫 氏
寄神建設(株)



小笠原洋治 氏
カナツ技建工業(株)



原 孝貴 氏
(株)西海建設



堤田勝次 氏
門田建設(株)

◆通常総会講演会

「港湾行政の動向について」

講師：国土交通省大臣官房技術参事官 森橋 真 様

令和8年度港湾局関係予算の概要や直轄事業の実施に向けた取組のほか、港湾工事における作業船、港湾の発展のための港湾建設業界が抱える課題に関する懇談会、工事安全などについて、分かり易いご説明で有意義な講演となりました。

◆40周年記念講演会

「工事用船舶を活用したブルーカーボン生態系の創出」

講師：徳島大学環境防災研究センター客員教授 中西 敬 様

1. はじめにブルーカーボンって何？ 2. ブルーカーボンをうまく使うために（工事用船舶を活用したブルーカーボン生体系の創出） 3. 神戸港摩耶埠頭での実証実験について 4. ガイドブック（案）の位置づけと今後の進め方についてご講義いただき、最後に海技協との取り組みの提案を述べられ講演を締めくくって頂きました。

通常総会懇親会・設立40周年記念祝賀会

第40回通常総会及び講演会終了後、ホテルルポール麹町2階「ロイヤルクリスタル」において、多数の関係者を招き「通常総会懇親会・設立40周年記念祝賀会」が行われました。

始めに寄神会長が「当協会は、昭和61年3月に設立以来、海洋工事業の振興と海上工事技術の向上を図り、港湾等の社会資本の整備や海洋開発の推進に貢献してきたと自負しております。そして今年は、海技協発足40周年にあたる大きな節目となる年です。40年の歴史を振り返り、海技協の発展のためにご尽力頂いた先輩諸氏への感謝を込めて、本日は、総会懇親会とあわせて、ささやかではございますが40周年の記念祝賀会とさせていただきます。なお、本パーティの前には「工事用船舶を活用したブルーカーボン生態系の創出」と題しまして記念講演を行っていただきました。大変面白い取り組みをご紹介いただき、講師の徳島大学中西先生にはあらためて感謝申し上げます。

ご参加の皆様で40年をおおいに語らい振り返っていただき、そして今後の海技協が歩むべき方向について、作業船のあるべき姿にご示唆いただけると幸いに存じます。

国会議員の先生方、官公庁、関係団体の皆様方、そして、本日、ご出席されている会員の皆様方には、当協会の目的と役割をご理解いただき、今後とも、私ども協会へのご支援、ご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。私からの挨拶とさせていただきます。

本日は、まことにありがとうございます。」と挨拶されました。

次に、衆議院議員 宮内秀樹様、参議院議員 阿達雅志様、参議院議員 朝日健太郎様、国土交通省港湾局長 安部賢様、農林水産省水産庁漁港漁場整備部長 中村隆様、からご祝辞をいただき、全国浚渫業協会会長 金澤寛様から乾杯のご発声をいただきました。

また、最後に清原副会長の中締めで盛会のうちに閉会しました。

100年企業に向けて

株式会社 轟 組

代表取締役副社長 小笠原 佳孝

令和8年1月、轟組は創立80周年という節目を迎えることができました。創業以来、轟組は建設業を通じて地域の発展と人々の暮らしを支えることを使命としてきました。

轟組が誕生したのは、昭和21年（1946）1月29日。前年7月4日に高知を襲った大空襲、そして8月の終戦を経て新しい時代への幕開けとなる年のことでした。人々が終戦のショックから立ち直り、何とか明日に向けて頑張っていこうと立ち上がり始めた時期です。

共に明治44年3月に高知一中（現在の県立追手前高校）を卒業した学友で、銀行マンだった吉村近次、当時一流土木技術者として名を馳せた柳生義郎、同じく優秀な土木技術者で新事業に意欲的だった戸梶晴海の三人が、各自の力と技術を結集し、戦災からの国土復興を目標に『轟組』を創立しました。

社名の轟組には、創立者の3人が古い友人であることから、3つの車を結束、力と技を一つにして轟とし、力強く、そして天下にとどろき渡れとの願望が込めら





れています。

最初の工事は国立高知病院改修工事を設計施工したのが始まりで、創立直後から22年春にかけては建築工事を多く施工させていただきました。土木の初仕事は空襲での焼跡を整地清掃する工事でした。その後も工事を獲得しようと営業活動が続けるものの、実績がなく、入札に参加できない日々が続いておりました。

転機となったのは、昭和21年12月21日に発生した南海大地震でした。高知県での被害は甚大であり、家屋の全半壊、河川、港湾、道路、橋梁等が壊滅状態となり、復旧工事が急がれました。この震災関連の工事を相次いで受注し、復旧工事に従事することで、会社として大きく成長することが出来ました。また、この時受注した室戸岬港震災復旧工事が初めての港湾工事となりました。

その後80周年に至るまで、土木においては、幅広い工事を施工し、特にトンネル工事を県内外で多く施工させていただきました。その実績が現在の轟組の大きな強みとなっております。港湾においては昭和57年に起重機船「第35轟丸」を建造、昭和59年に大型作業船FD「むろと」を建造、そして平成10年には現在も稼働中の起重機船「世紀21号」を建造しました。建築においては新築、改修を含め公共民間共に多くの工事を施工させ

ていただきました。

また、平成21年には多目的施設のシリーズ（旧サンピア高知）を購入、令和4年には指定障害福祉サービス事業であるアクアコーポレーションを設立し、現在の轟組は土木・港湾・建築の3本柱を軸にグループ会社としてホテル業や障がい者福祉事業の異業種にも挑戦しております。

100年企業に向けて、轟組は今後も「正直」「真面目」「一生懸命」を信条に、一つひとつの工事に真摯に向き合い、地域の皆さまからの信頼を積み重ねていき、そしてその信頼に応えるために、常に進化し続けて参ります。「轟組」のロゴが、働く社員にとっても、地域の皆さまにとっても誇りに思えるような存在であり続けること。それが、これからも変わらない私たちの目標です。



80th ANNIVERSARY
小さな気づき、大きな築き。

DPS作業台船「あわじ」

株式会社 関海事工業所

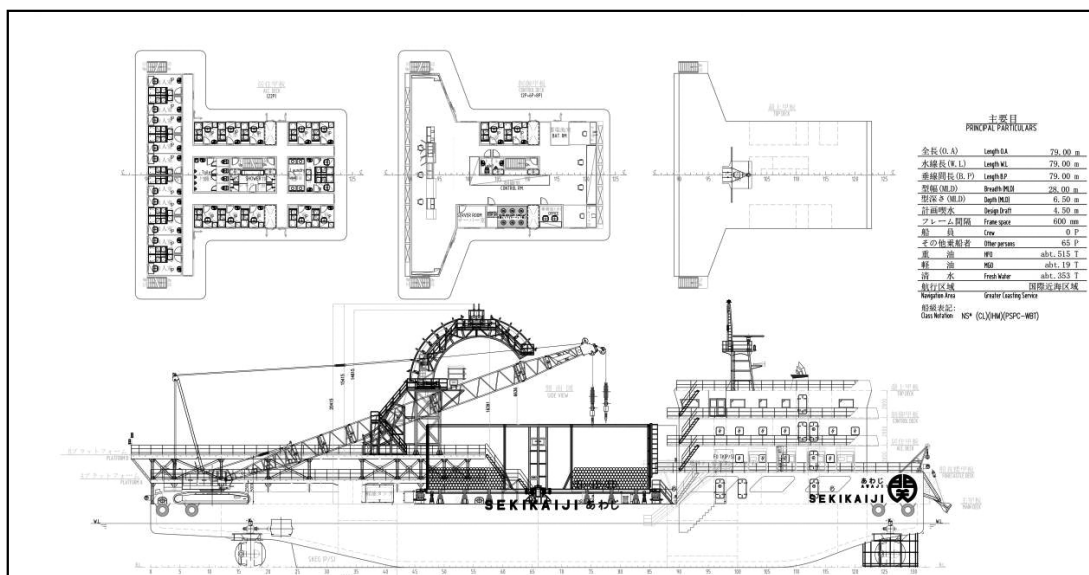


1. はじめに

近年、我が国では再生可能エネルギーの導入拡大や電力系統の強靱化を背景に、洋上風力発電設備を結ぶ海底送電線や地域間連系線など、大規模な海底ケーブル工事の需要が増加している。また、通信インフラや離島への電力供給を支える海底ケーブルは、国民生活を支える重要な社会基盤として、その役割がますます大きくなっている。

こうした時代の要請に応えるため、株式会社関海事工業所では、海底ケーブル工事施工に特化した DPS (Dynamic Positioning System) 搭載作業台船「あわじ」を建造した。

本船は、高精度な船位保持性能と大容量ケーブル搭載能力を兼ね備え、海底ケーブル工事の効率化と安全性向上を目指した次世代型の布設台船である。本稿では、その特徴と活用分野について紹介する。



会員作業船紹介

2. 主要諸元

2-1. 船体主要寸法

項目	内容
全長	79.00m
幅	28.00m
深さ	6.50m
満載喫水	4.50m
船級	NK
トン数	4,639t
航行区域	近海区域（国際航海）
最大搭載人員	65名

2-2. 船位保持設備

設備	内容
総括操縦装置	川崎重工業（KICS5002 / 5002+1002）
スラスター	川崎重工業（REX KST-165ZC/E × 4基）
モーター	大洋電機（1,030kW × 4台）
駆動用発電機	デンヨー（800kVA × 8台）

2-3. 主要設備

設備	内容
3,500tターンテーブル	外径23m × 内径7m × 高さ6.5m 1式
ピックアップアーム	R6.5m、タイヤ式2t牽引機付き 1式
クレーン	120tクローラークレーン 1式
主発電機	500kW 4台
ウインチ	ウインドラス15t × 2台、10t × 4台（船首船尾両舷） 20t × 4台（船首船尾両舷）

2-4. 居住区設備

設備	内容
個室	1人用個室48室（うち女性専用4部屋）
衛生設備	シャワー、トイレ、洗濯室（各階層）、女性専用有
生活設備	食堂、厨房、冷蔵室、冷凍室
その他	医務室、事務室

3. 本船の特徴

3-1. 海底ケーブル工事施工を追求した船体コンセプト

「あわじ」は、海底ケーブルの布設・回収・保守を主目的として建造した作業台船である。

船体レイアウトは、広大な作業スペースと効率的なケーブルハンドリングを両立できるよう設計され、各設備の配置についても施工動線を重視している。また、浅海域での作業を想定した船型で、沿岸部から洋上まで幅広い施工環境に対応できる運用性を備えている。

施工品質だけでなく、安全性や作業効率の向上も設計段階から重視し、将来の大型海底ケーブル工事への対応を見据えた仕様としている。

3-2. DPS による高精度な船位保持

海底ケーブル施工では、船体位置のわずかな変動が施工品質に大きく影響する。

「あわじ」は DPS を搭載し、GNSS やジャイロコンパスなどの測位情報をもとに 4 基のスラスターを自動制御することで、風・波浪・潮流などの外力を受けても高い精度で船位と船首方位を維持することができる。

これにより、アンカー展張が困難な海域や狭隘な施工区域でも安定した作業が可能となり、施工精度の向上と作業時間の短縮、安全性の確保に寄与している。



制御室



KICS5002コンソール



スラスター

3-3. 大容量ケーブル施工を支えるハンドリング設備

本船の最大の特徴は、国内最大級となる 3,500 t ターンテーブルを搭載していることである。

大量の海底ケーブルを一括搭載することで、大容量かつ長距離区間を効率よく連続施工することが可能となる。また、ターンテーブルと連携するピックアップアームや各種ウインチ、120 t クローラクレーンを組み合わせることで、ケーブルへの負荷を抑えながら安全かつ円滑なハンドリングを実現している。この設備構成により、大規模送電ケーブルから通信ケーブルまで、多様な施工ニーズに柔軟に対応できる。



会員作業船紹介

3-4. 長期工事を支える快適な居住環境

海上工事では、施工能力だけでなく乗組員や作業員が安心して生活できる環境も重要である。

「あわじ」は全48室を一人用個室とし、そのうち4室を女性専用室として整備している。さらに、食堂、厨房、シャワー、洗濯室、医務室などを備え、長期間の洋上作業でも快適な生活環境を維持できるよう配慮した。

十分な休養環境を確保することで、疲労軽減やヒューマンエラー防止にもつながり、安全な施工体制を支えている。



食堂



執務室



洗濯室



個室



女性専用シャワールーム

3-5. デジタル技術を活用した施工管理

本船では、海底ケーブル敷設工事の施工管理を支援するため、EIVA社製の統合ソフトウェア「NaviSuite」を導入しています。

船位、施工ルート、ケーブル敷設状況、施工進捗などをリアルタイムに把握し、一元的に管理することで、より確実に効率的な施工をサポートします。また、取得したデータは施工後の確認や記録管理にも活用され、施工品質の向上とトレーサビリティの確保に寄与します。



敷設／埋設管理ソフト「NaviSuite」

4. 今後期待される役割

「あわじ」は、高精度な施工能力と大容量施工能力を兼ね備えた作業台船として、洋上風力発電設備の送電ケーブル布設をはじめ、地域間連系線、離島送電設備、通信ケーブル、既設ケーブルの更新・保守工事など、多様な日本の海洋インフラ整備を支える重要な役割を担うことを目指している。

5. おわりに

海底ケーブルは、電力・通信・再生可能エネルギーを支える「海のライフライン」であり、その重要性は今後さらに高まっていく。

「あわじ」は、その施工を担うために建造された海底ケーブル施工専門の DPS 作業台船であり、高精度な船位保持機能、大容量ケーブルハンドリング設備、快適な居住環境、デジタル施工管理システムを融合した新しい施工プラットフォームである。

当社は創業以来 120 年以上にわたり海底ケーブル施工に携わり、社会を支える海洋インフラの整備に貢献してきた。その歩みの中で培った技術力と経験を「あわじ」に結集し、安全で高品質な施工を追求するとともに、「海底ケーブルでつなぐ、未来と絆」の理念のもと、人と人、地域と地域をつなぎ、未来へ続く確かな技術と信頼を築いてまいります。

カナツ技建工業株式会社

おがさわら ようじ
小笠原 洋治



プロフィール

- 出身地 島根県
- 生年月日 1973年12月10日
- 職 責 専門マネージャー
- 船 団 第15しまね号船団
第16しまね号船団

●経歴（資格取得）

- ・平成3年4月入社
- ・平成13年 2月 1級土木施工管理技士 取得
- ・平成23年12月 海上起重作業管理技士 取得
- ・平成27年12月 登録海上起重基幹技能者 取得

●主要工事実績

- ・出雲石見地区（島根町工区）
水産環境整備工事（2025）
- ・恵曇漁港北沖防波堤工事
その1～その9（2020～2024）
- ・恵曇漁港災害復旧工事（2015）
- ・瀬崎漁港漁港施設機能強化工事（2013）

●今後について

カナツ技建工業に入社し35年になります。
現在、社内における港湾工事及び各船団の統括的業務を行っています。

“海”という大自然を相手に行うこの仕事は、技術だけではなく、経験も重要であると感じております。

時代の変化とともに、工事・船舶を取り巻く環境が大きく変化していく中で、今まで培った技術・知識を次の世代へ引き継がなければと思っています。



マリンニュース 事務局だより

東北支部

◇東北支部総会開催

第26回通常総会が令和8年6月9日(火)、仙台市の「ホテルモントレ仙台」において開催致しました。

会員27社中17社の出席、委任状提出10社を得て執り行いました。議案は全て原案通り承認されました。

終了後、港湾関係四協会合同による意見交換会が催されました。

総会次第

1. 開会
2. 支部長挨拶 支部長 細川 英邦
3. 来賓挨拶
東北地整 港湾空港部長 山本 貴弘 様
日本海上起重技術協会 会長 寄神 茂之 様

4. 議 事

議事については、事務局から内容について説明し、監事からの監査報告を受けて参加者全員の承認を得たところです。

議事説明内容

第1号議案 経過報告について

第2号議案 令和7年度収支決算報告及び
会計監査報告について

第3号議案 令和8年度事業計画(案)及び
予算(案)について

【報 告】協会の人事について

5. 本部活動報告

専務理事 富田 幸晴 様

6. 閉会



四国支部

◇令和8年度四国支部通常総会を開催

令和8年5月25日(月)に通常総会を高知市のセリーズにおいて開催いたしました。

本部からは、寄神会長、山本副会長と富田専務理事にご臨席いただき、全会員(委任状2)出席のもと、各議案(1.2.満場一致で承認されました。

総会後には、四国地方整備局 港湾空港部長浅見尚史様に「港湾への鉄道アクセス～これまでのあゆみと将来展望」と題して講演をして頂き、過去の講演とは異なりとても斬新な、会員一同においては大変有意義な講演となりました。

その後は、恒例の懇談会に移り四国一円から参集した会員や本部の役員の方々や四国地方整備局の方々と「中東情勢による懸念事項と不安解消に向けた取り組み」など、熱く熱く意見交換がなされ夜が更けていきましたとさ。



本部活動

◇第113回理事会

第113回理事会は、当協会定款第32条第2項により書面による決議により行われました。

理事から議決権行使書を、また、監事から意見表明書をそれぞれいただき、各議案とも了承されました。

(令和8年4月20日付け)

第1号議案 令和7年度事業報告の件

第2号議案 令和7年度収支決算の件

第3号議案 その他議案の件

1. 協会長表彰候補者に関する件

◇令和8年度 港湾功労者表彰 受賞者紹介

令和8年5月27日(水)(公社)日本港湾協会主催の港湾功労者表彰式が横須賀市総合体育会館(横須賀アリーナ)において執り行われました。

当協会からは南生建設(株)工事本部部長 川原勝憲氏、寄神建設(株)経営企画部専任部長 松本博幸氏、高砂建設(株)執行役員機材管理部部長 飯田旬氏、門田建設(株)工事部建築部長 田吉浩美氏の4名の方が受賞されました。誠におめでとうございます。



向かって左側から;
川原勝憲氏、松本博幸氏、飯田旬氏、(欠席)田吉浩美氏

●お知らせコーナー●

安全啓蒙ポスター 配布のお知らせ

毎年度「安全ポスター」を作成し、作業員一人一人の意識向上、啓蒙に役立つこと、及び海上起重作業船団の更なる安全運航に寄与することを願うものであります。

会員への配布

「安全ポスター」は、会員には5部配布し、また発注関係官公庁にも配布しております。なお、部数に余裕がありますので、追加配布を希望される会員は協会事務局へ申し出て下さい。



「安全ポスター」

「非自航船における居住設備ガイドライン」 及びポスター配布のお知らせ

令和5年3月、一般社団法人日本埋立浚渫協会、日本港湾空港建設協会連合会、一般社団法人日本海上起重技術協会、全国浚渫業協会、一般社団法人日本潜水協会においては、港湾工事の実施に必要不可欠である作業船内における良好な居住設備を確保するため、「非自航船における居住設備ガイドライン」を策定しました。

本ガイドラインの着実な実施を通じて作業船乗組員の適正な就労環境を確保し、もって港湾工事に係る担い手の確保を推進していくものです。

会員への配布

「非自航船における居住設備ガイドライン」A4版の冊子及びポスターは、会員へにはそれぞれ1部配布していますが、部数に余裕がありますので希望される会員は事務局へ申し出て下さい。



「ポスター」

海技協ホームページ「会員専用ページ」の掲載事項（4月以降掲載分）

〔協会からのお知らせ〕

- 「令和7年度事業報告」
- 「令和7年度収支決算」
- 「第40回通常総会議案」(令和8年4月22日)

(注)会員専用ページは、随時更新していますのでご利用下さい。

「会員専用ページ」を開くためには「ユーザー名」と「パスワード」が必要です。当協会事務担当者にお尋ね下さい。

インフォメーション

海技協 販売図書案内

図 書 名	概 要	体 裁	発行年月	販売価格
作業船団の運航に伴う 環境保全対策マニュアル (改訂版) (国土交通省港湾局監修)	作業船団の運航に伴い自らが発生する排水等の環境阻害要因に対する方策を取りまとめたマニュアル 海洋汚染防止条約(マルポール条約)の付属書採択に伴う国内法の改正を反映 ・「港湾工事共通仕様書」に参考図書として記載	A4版 100ページ	平成30年4月	会 員 2,000 円 非会員 2,500 円 (消費税別、送料別)
作業船団安全運航指針 (改訂版) (国土交通省港湾局監修)	作業船団の安全な運航に対する安全衛生管理、操船、係留時等の安全対策及び作業船による架空送電線事故防止対策を取りまとめた指針 労働安全衛生法等の改正を反映、船員労働安全衛生規則に規定されている経験又は技能を要する危険作業に関する事項を新たに記載 ・「港湾工事共通仕様書」に参考図書として記載	A5版 200ページ	令和2年6月	会 員 2,000 円 非会員 2,500 円 (消費税別、送料別)

※購入は「図書名、部数、送付先、担当者、連絡先、請求書あて先」を記入した FAX 又はメールで、協会事務局へ申し込んで下さい。

FAX 番号：03-5640-9303

E-mail：honbu@kaigikyo.jp

マリン・プロフェッショナル
海技協会報2026.7 VOL.160

禁無断転載

発行日 令和8年7月

発行所 一般社団法人日本海上起重技術協会
広報委員会

〒103-0002

東京都中央区日本橋馬喰町1-3-8

ユースビル8F

TEL 03-5640-2941

FAX 03-5640-9303

印刷 株式会社 TBSグロウディア



一般社団法人 **日本海上起重技術協会**



本部	〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-3-8 ユースビル8F TEL 03(5640)2941 FAX 03(5640)9303 URL https://www.kaigikyo.jp/ E-mail honbu@kaigikyo.jp
北海道支部	〒060-0051 札幌市中央区南一条東2-2-5 SB大通東ビル9F (株)濱谷建設札幌支店内 TEL 011-211-5222
東北支部	〒030-0821 青森市勝田2-23-12 (株)細川産業内 TEL 017(723)1451
関東支部	〒104-0044 東京都中央区明石町13-1 (株)古川組内 TEL 03(3541)3601
北陸支部	〒951-8650 新潟市中央区西湊町通3ノ町3300-3 (株)本間組内 TEL 025(229)8473
中部支部	〒413-0011 熱海市田原本町9-1 青木建設(株)内 TEL 0557(82)4181
近畿支部	〒652-0831 神戸市兵庫区七宮町2-1-1 寄神建設(株)内 TEL 078(681)3126
中国支部	〒737-0822 呉市築地町4-40 大新土木(株)内 TEL 0823(21)1470
四国支部	〒781-0112 高知市仁井田1625-2 大旺新洋(株)内 TEL 088(847)2112
九州支部	〒808-0021 北九州市若松区響町3-1-33 (株)白海内 TEL 093-751-0350
沖縄支部	〒900-0036 那覇市西2-11-12 1F 丸尾建設(株)那覇支店内 TEL 098-869-1617